（別紙6）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成２０年１月２４日

【評価実施概要】

事業所番号	0770102465		
法人名	株式会社 コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホーム　愛の里		
所在地	福島県福島市大森字街道下５２番地 （電　話）024-544-0188		
評価機関名	社会福祉法人　福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮１１１番地		
訪問調査日	**平成19年11月27日**	評価確定日	**平成20年1月28日**

【情報提供票より】（19年10月19日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成19年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	14 人	常勤　12人，　非常勤　2人，　常勤換算13.38人	

（２）建物概要

建物構造	木　造り
	2　階建ての　1～2　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	29,100　円		その他の経費(月額)	円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（４）利用者の概要（10月19日現在　）

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護１	3　名	要介護２	4　名		
要介護３	10　名	要介護４			
要介護５		要支援２			
年齢　平均	85 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人　朋友会　しのぶ病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

独自の理念にあるように個別性を意識したケアを追及している。具体的には24時間安心して暮らせるだけにとどまらず、いろいろなことができるというように多様な目標を追求しており、全体でのレクリエーションの時間以外に各入居者ごと週1回６０分程度担当職員が1対1のケアの時間を作り、散歩や趣味を楽しむ「個別ケアの時間」を設けている。そこではユニットミーティングで立てられた計画を元に実行し、言動を細かく観察しながら更に詳しい意向を確認していくことで、理念である「その人らしく元気で生活できるよう」に日々関わっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価の結果を元に改善点の話し合いを行った。運営理念の啓発は地域住民としての活動を意識して「外に出ること」を主に取りくむようにした。各種マニュアルも整備し、感染症が流行している時期には朝のミーティングで振り返るなど活用している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	職員ミーティングで内容に関して協議し、作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	運営状況の報告が主だが、参加メンバーに地区の班長や担当民生委員がいるため、理解を得るにつれて地域の行事情報などを随時教えていただき、地域に出かけていくことにつなげてる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	担当者による随時の電話連絡を徹底している。また、ホーム独自の広報誌を作り家族へ送付している。直接意見を聞く手段としては、ホーム主催の行事の後に家族と職員の意見交換会を開催している。欠席者には報告書を送付して情報の共有を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	なるべく地域に出て行くような取り組みをケアの方針に取り入れ行っている。地区の班長の紹介で文化祭の行事に参加したり、畑仕事を一緒に行ったりしている。

２．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人を尊重し、その人らしい生活を送れるよう、個人の趣味、生活スタイルを支持し、家族、地域の方との交流を図りゆとりある日常生活を支持します」という独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に付く所に理念が明示してあるので意識して取り組める。職員は理念の実践に向けたケアを心がけており、ホームの特徴的な取り組みである「個別ケアの時間」にもつながっている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	なるべく地域に出て行くような取り組みをケアの方針に取り入れ行っている。地区の班長の紹介で文化祭の行事に参加したり、畑仕事を一緒に行ったりしている。また、毎月の行事担当者が中心に計画をし、近所のレストランなどに出ている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員ミーティングなどで話し合って作成した。前回の結果を踏まえて家庭的な環境づくりに取り組んだ。ホールには畳の小上がりを作ってコタツを置いた。ホーム各所にベンチソファーを置いて視線が交わらないようにした。また廊下の手すりは利用者の日常生活動作を踏まえてあえて設置しないことに決めるなど外部評価を踏まえ、現場職員の目でアセスメントし直している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は運営状況の報告が主だが、参加者に地区の班長や担当民生委員がいるため、理解を得るにつれて地域の行事情報等を随時教えていただき、地域に出かけていくことにつなげてる。		
6	9				
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者による家族等への随時の電話連絡を徹底している。また、ホーム独自の広報誌を作り、家族へ送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接意見を聞く手段として年2回のホーム主催の行事の後に家族等と職員の意見交換会を催している。欠席者には報告書を送付して、情報の共有を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	取得している資格の活用や資質の向上を目的とした異動はあったが、基本的には職員と利用者のなじみの関係を大事にしており、運営者はなるべく異動がないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の主催する研修等の情報はすべて職員に提示しており、希望を優先し参加者を決定するようにしている。参加の場合は勤務扱いにし、職員同士でも勤務交代するなどの配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を利用して県単位での交流を図っている。具体的にはいわきのグループホームから記録様式を取り寄せて参考にしていく予定である。また、近くのグループホームからケアに関する不明点について相互に情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩としてさまざまな情報を利用者から得て、職員も学んでいる。主に季節ごとにある行事の由来や調理のコツなど教えてもらったり、「もったいない」精神など教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居にあたって生活暦や意向などの情報収集を意識して行っている。利用者や家族等からも詳細が把握できない場合などは日常の言動を注意している。また、把握した内容はユニットミーティングで計画を立て「個別ケアの時間」を利用者ごとに設定し、職員が1対1で６０分を目安に関わるようにして、更に詳細な思いや意向を把握している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員が把握した利用者一人ひとりの思いや意向をもとに介護計画はユニットミーティングで話し合いながら作成している。家族等には面会時に介護計画の目的を説明して意見をいただき作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には３ヶ月ごとに見直しをかけている。毎月のユニットミーティングでは、まず利用者の介護計画に関する話し合いを行っている。経過記録の内容が介護計画に連動できるような工夫を検討中である。	○	介護計画の内容がより具体的にケアに反映できるような様式の作成や仕組作りを検討してほしい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族同行を基本に勧めている。理由には家族とご本人の定期的なつながりの維持が目的になっている。また通院にはホームでのバイタル情報などを提供したり職員が服薬の微調整などをこまめに専門医へ伺っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期もホームで過ごせる体制を積極的に考えている旨をご家族には伝え、方針を共有している。また近所の医者にも支援に関して協議しながら、内諾を得ている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の居室は個人の空間という意識を持ち、入、退室時にもきちんとあいさつをしたり、入浴介助は同性が介助を行うなど利用者のプライバシーに関して注意している。ケース記録等は鍵のかかる棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよそのホームの一日の予定はあるが、昼寝の時間が過ぎても寝ている方はそのまま寝かせていたり、食事のメニューは利用者の意向を沿って優先するなど利用者一人ひとりのペースや希望を尊重している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望にあわせて作っているが、毎月管理栄養士に見てもらい助言を受けている。調理や後片付けは利用者の過去の経験や役割意識を活かし、それぞれのできる範囲で一緒に行っている。職員は全員一緒に食事を摂って会話を楽しみながら介助を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴介助は基本的に同性が介助を行うように対応している。入浴しない場合にはシャワー浴などで対応している。夜間入浴を希望する場合は対応することにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	一人ひとりの状況にあわせて簡単な調理、後片付け、畑仕事、買い物、テーブル拭きなどの役割を支援する他、毛筆の得意な人には毎月の予定を書いてもらいホールに掲示したりしている。また、戦争に行った利用者で天皇陛下を大事に思っている方には、あわせて朝遥拝するなどその方の気持ちのよりどころを把握して関わっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	毎月の外出兼ドライブや毎日の買い物等希望を伺って、なるべく閉じこもらないように外出支援をしている。また、地域住民との交流のために近所への外出や散歩を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普段から利用者の行動等に注意し、鍵はかけないケアに取り組んでいる。飼っているペットの猫も自由に出入りできるくらいの状況である。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を行った。その際には夜勤帯を想定して行い、毎回誰をどのように誘導するか詳しく検討している。2ヶ月に1回は避難訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事量を把握して一覧表に記している。また、毎月管理栄養士に献立を見てもらい助言を得ている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回の外部評価の結果を踏まえて改善した。玄関にはプランターを置き、玄関ホールにはベンチや観葉植物などを置いている。ホーム内には季節感の感じられる小物をおいてあり、家具も家庭的なものを設置している。また、畳のスペースもあり、利用者が居心地良く過ごせるようしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や枕などを自宅から持ち込んでもらったり、仏壇や三面鏡など利用者の希望するものを持ち込んで利用者の好きなように部屋を使い、居心地のよい環境になるよう支援している。		

※ ▒は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙１）を添付すること。

３　評価結果に対する事業所の意見

事業所名	グループホーム　愛の里
記入担当者名	髙木　真由美

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。